

全日畜だより

[こちら編集部] (03)-3583-8034

東京都港区麻布台2-2-1麻布台ビル

発効日 2017年10月3日

発行NO 2017 - 3号

特集

○ **自民党農林部会長 野村哲郎 議員への緊急要請 (9/22)**

○ **東北・関東ブロック畜産経営者交流会を開催 (9/28~29)**

○ 全日畜は、農林水産省の平成30年度予算概算要求が財務省に提出されたタイミングをとらえて、9月22日自民党の農林部会長に就任した 野村哲郎 参議院議員(鹿児島県)に緊急要請を行いました。
※要請には金子春雄理事長ほか全理事が参加。補正予算の確保も含めて畜産のパワーアップに役立つ十分な予算確保を強く要請しました。緊迫した政局の下で迎えた当日、政府は衆議院の解散を公表。

○ 全日畜は、TPP交渉を契機に、商系3団体(工業会・全日基・全日畜)で畜産経営者をサポートする活動として「畜産経営者交流会」を開催してきました(これまで3回の交流会を東京で開催)。第4回開催となる今回は「地域でも開催して欲しい」との多くの参加者からの要望を受けて、東北・関東ブロックを対象とした交流会として、9月28日と29日の両日、栃木県宇都宮市及び大田原市で開催しました。
※今回の交流会のテーマは「スマート畜産経営への期待」で、AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)を活用したスマート畜産について講演・意見交換会と現地研修会を行いました。

国会議員への緊急要請

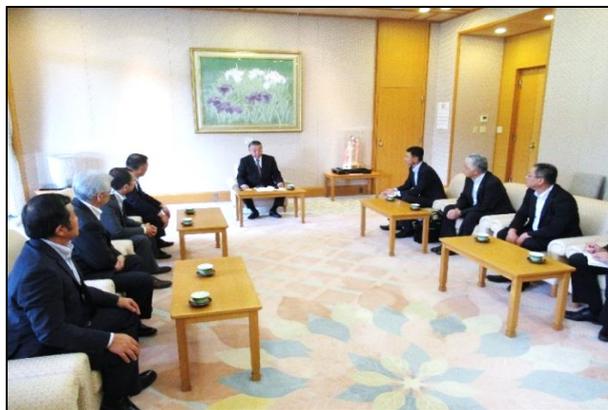
○ (自) **野村哲郎農林部会長への要請 (9月22日)**

自民党の 野村哲郎 農林部会長は、早朝からの委員会等の合間で、多くの面会者が待機している中、全日畜の要請団と約30分の面談に応じていただきました。

全日畜からは、日欧EPA等の国際的な自由貿易協定発効後の国内対策の必要性、十分な畜産クラスター関連予算の確保、安全な畜産物生産への支援(GAP制度の負担軽減等)、国内飼料原料の安定的確保、防疫対策への支援等を要請しました。

野村部会長は、生産現場の切実な要望としてしっかり受けとめたい。今日の報道にあるように衆議院の解散で今後の審議スケジュールがタイトとなることを懸念するが、しっかり対応していきたいと応じられました。

(写真「右上」は、金子理事長の説明を聞く野村部会長
写真「右下」は、野村議員と全日畜理事の皆さん)



○ **大島理森衆議院議長と面談 (9月22日)**

全日畜の今回の議員要請では、中央の各畜産団体とも親交の深い 大島理森 衆議院議長への面会も実現しました。議長公邸に招かれた要請団は、畜産生産現場の実情等をしっかりと説明することができました。
対応された大島議長は、皆さんの要求は重要な事項で今後しっかりと議論していきたいと対応されました。

(写真「左」は、議長公邸での面談の様子から)

(文中での団体の略称標記について)

・一般社団法人 全日本畜産経営者協会 (全日畜)

・一般社団法人 全日本配合飼料価格畜産安定基金 (全日基)

・協同組合 日本飼料工業会 (工業会)

・一般社団法人 都道府県配合飼料価格安定基金協会 (〇〇県基金協会)

東北・関東ブロック畜産経営者交流会

テーマ 「スマート畜産経営への期待」

(開催日) 平成29年9月28日～29日

(会場等) 栃木県宇都宮市 利にユイヤ 他

第1日目 交流会

第1部の講演会・意見交換会は、全日畜の金子春雄理事長が「近未来の畜産を学習しましょう」と開会挨拶されました。

第2部の交流会は、工業会の山崎裕史副会長が「初めての地域開催を実現しました」と開会挨拶されました。



(全日畜 金子理事長)



(工業会 山崎副会長)



(農水省 三上室長)

来賓を代表して、農林水産省飼料課の三上卓矢室長は、畜産を巡る情勢を交えてご挨拶されました。

第1部では、農研機構の土肥宏志総括研究リーダーが、基調講演で監視カメラやインターネットを活用した牛群管理や搾乳・給餌・清掃ロボットの活用、等の先進事例を紹介され、続いて農研機構が実施しているプロジェクトの中から、次世代閉鎖型牛舎やICT(情報通信技術)を活用した草地管理、搾乳ロボットやリアルタイムで個体管理する個体情報高度活用システム等について紹介されました。

最後に、今後のAIの活用には生産現場のさまざまな情報を網羅したビックデータの一元管理が不可欠となるだろうとまとめられました。



(基調講演の土肥宏志 先生)

次に4人の方から事例紹介をいただきました。事例紹介者も交えた会場参加者との質疑応答は途切れることなく続き、講師と会場との熱い意見交換が時間いっぱい続きました。

発言者の中には、スマート畜産の先進国オランダから来日中の3人の専門家も参加して今日の交流会に大変感銘したと意見を述べられました。

交流会は第1日目の参加者が130名、第2日目の現地研修会の参加者が56名でした。



(写真「上段」は、基調講演者・事例発表者の皆さん。「下段」は、会場からの発言の様子)

第2日目 現地研修会



(次世代閉鎖型牛舎をバックに参加者で記念撮影)

第2日目の現地研修会は、栃木県大田原市の(有)グリーハートT&Kを訪問しました。この農場では、次世代閉鎖型牛舎を試験研究機関の指導を得て実証試験中。関係者の丁寧で専門的な説明が大変印象的でした。



(実証試験担当者からの説明の様子)

主催者では、今回の交流会レポートを作成して、参加者以外の皆さんにもご覧いただく予定にしております。どうぞご期待下さい。

(文中での団体の略称標記について)

- ・一般社団法人 全日本畜産経営者協会 (全日畜)
- ・一般社団法人 全日本配合飼料価格畜産安定基金 (全日基)
- ・協同組合 日本飼料工業会 (工業会)
- ・一般社団法人 都道府県配合飼料価格安定基金協会 (〇〇県基金協会)